

支援事例 ケース1

相談者

東京都23区内在住 60代 単身女性 無職 2010年9月から入居

【相談内容】

以前から患っていた糖尿病が悪化し、入院することになったご相談者。合併症により手術が必要と言われ、勤務先を退職せざるを得なかったとのこと。入院後は、今までの貯蓄と近所に住むご子息からの援助で賄ってきたようです。その後、ご子息が失業して生活状況が悪化した為に、援助が受けられず、生活が苦しくなってしまったとのことでした。

年金の受給資格もなく、当分働くこともできない為、**今後の家賃の支払いが難しくなるので、どうしたら良いものか悩んでいる**との連絡を受けました。

【対応内容】

本来、障害年金の申請が可能はずでしたが、入院費が未納であったことや相談時の所持金が数千円程度であったことなどから、年金申請する為に必要な書類を病院から取得することができなかった模様でした。相談者様との話し合いの結果、一緒に福祉事務所へ同行してケースワーカーの方に状況を説明・相談したところ、生活保護の申請をする結論に至り、スムーズな申請手続きで生活保護を受給することになりました。

【入居者様の声】

生活相談員に連絡する前に、生活保護の相談をする為に一人で福祉事務所に行ったが、自分の困っている状況を上手く伝えられず、厳しい叱責を受けてしまい、正直また福祉事務所にご相談することを躊躇していました。

今回**一緒に付き添ってもらって非常に心強かった**ですし、私自身の言葉が足りないところを分かりやすく補足してくれて、本当に助かりました。

これからは安心して病気の治療にも専念出来ます。ありがとうございました。